

9 5. ^{ほっこくわきおうかん} 北国脇往還 ^{ぜんこうじみち} (善光寺道)

選定箇所：善光寺宿、丹波島宿（長野県長野市）、稲荷山、^{さるがぼんぼ}猿ヶ馬場峠（千曲市・麻績村）、麻績（麻績村）、青柳宿（麻績村・筑北村）、立峠（筑北村・松本市）、会田宿、刈谷原峠（松本市）、郷原宿（塩尻市）

概要：中山道と北国街道を結ぶ輸送路で、善光寺への参詣道としても利用された。戦国時代には刈谷原、会田、青柳、麻績等で宿場が作られた。慶長19年（1614）、松本城主の小笠原秀政によって中山道と麻績との間で宿駅制度が整備され、猿ヶ馬場峠を越えて桑原（千曲市）や稲荷山と結ばれたことで、北国脇往還が成立した。洗馬（塩尻市）から善光寺へは約80kmの道のりで12（間の宿を含めると17）の宿場が設けられている。本陣や石仏等、往時の状況が良好に残されている。



写真提供：千曲市教育委員会